
ネギまに生まれた始祖精霊

蒼騎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ネギまに生まれた始祖精霊

【Nコード】

N0023Z

【作者名】

蒼騎

【あらすじ】

ネギまの世界に転生した主人公の話。

この作品は作者の処女作です。温かい目で見てください。

この作品は独自設定、キャラ崩壊、原作崩壊、アンチがあります。苦手な人は見ないください。

プロローグ

「知らない空間だ・・・」

なんだこの真つ白な空間は？

はっ！まさかここは二次創作でよくでる神様のいる空間か！

いやいやおかしい・・・俺はまだ死んでないはずだ。これがテンプレ通りなら、俺が何らかの理由で死んだから転生させてあげるって展開のはずなんだがどういうことだ？

それともこれはただの夢という落ちか？

「その通りじゃ。これはお主の夢の中じゃ」

神様があらわれた。

俺が振り向いてみると・・・眼に光が入って眩しい！？

そこには顔が輝いていて良く見えなかったが、良く見てみるとそこにはかなり伸ばした髭とツルツルで光り輝く頭をもった神がいた。

神様の神々しい光ってツルツル頭の反射の光だったんだなっと思ひじみ思つと・・・

「お主は失礼なやつじゃな」

ん？思考が読まれてる？

まあ神様の良くある能力か・・・人の頭を覗き見る変態め！

「これこれ、神を変態扱いするんじゃない。」

「で、その変態神様が一体何の用で？それになんで俺の夢の中に入ってきた？」

「それはお主を転生させようかな〜と思ってきたのじゃ。お主の夢の中に来たのは、はつきり言っただけじゃ。基本ランダムで誰の夢の中に入るかは俺も分からんのじゃ」

へ〜

転生か・・・面白そうだ。一度やってみたいと思ってたんだよね。魔法とかあるファンタジーなところが良いな。やっぱ男は魔法と言う浪漫がある世界に行くべきだと思うんだよね。

「ふぉ〜そうかそうか。良かったのじゃ」

「いったい何が良かったというんだ？」

「俺は暇でな。暇だから誰かで遊ぼうと思ったんじゃ。ちなみに転生させようとしたのはお主で7人目じゃ。前の6人は転生したくないと言って駄目だったんじゃ」

ふ〜ん。転生とか誰もしたことがなさそうなことを断る人が結構いるもんだな〜
なんでだろう？

「前の6人は大切な人を悲しませたくないとか好きな人と離れたくないって言って断ったのじゃ」

え・・・？普通神様の転生って周りから自分の存在を消して転生させるんじゃないのか？

それなら俺もやめy・・・

って俺にはもうそんな人いね orz

両親はもう死んでるし、好きな人は告つてもキモイの一言ですべて振られるし・・・

別にこの世界に未練なんてないかもwてか前の6人はリア充だったのか。

ん？なんか神様が泣いてるんだけど・・・

「グスツ・・・なんて可哀相な人生なんじゃ。儂からの気持ちとして今転生すると、転生先でなにかを叶えさせてやろう！」

なんて優しい神様なんだろうか！

なにを叶えさせてもらおうかなゝやっぱ転生と言ったら能力だよな。俺最強とかやってみたいしなゝ・・・って待てよ。

「この転生って何の能力なしのただの人として転生させるものだったのか？」

「その通りじゃ。なんで転生するのに能力なんているんじゃ？まあ

お主は今があまりに可哀相なんで能力を1つや2つなら与えよう」

ほっ・・・良かった。

でもこれって喜んだらいいのか、泣いたらいいのかわかんね・・・

「笑えばいいと思うよ」

「笑えねーよ！なに真顔で言っただよ。めっちゃ傷つくわー！」

「まあ冗談は置いて、転生先で願うことはどうするのじゃ？」

「まずどこに転生するのか教えてくれないか？」

「希望どこでも良いぞ。希望がなければランダムじゃ」

「じゃ『魔法先生ネギま！』の世界で」

魔法が使いたいならやっぱネギま！の世界だよな。

リリなのでも良いけどあそこは管理局がうざそうだし・・・なににより可愛い子が少ない！

ネギま！は正義の魔法使いがうざそうだけど、原作のクラスメイトみんな可愛いらしいからな。

それにエターナルロリータという貴重な存在もいるし！

あっ・・・リリなのにもいるか・・・でもあれはなんか違うんだよな。

「お主がロリコンということがよく分かったのじゃ。あと早く決めてほしいんじゃないか？」

おっと、能力はなんにしようかな

最強でありたいしそれになるべく長く生きたいから吸血鬼つてもありんだけど、原作みたいに吸血鬼だからって狙われるのは勘弁したい。

その条件で俺の知識の中にあるのはやっぱあれかな・・・

「俺を始祖精霊として転生させてくれ。それで『神曲奏界ポリフォニカ』の始祖精霊の能力を悪いところだけ取り除いたやつを頂戴。具体的に言つと、神曲は必要なしで絶望しても死なないようにしてくれ。」

あと羽根の設定として、羽根は基本的に6枚で本気だせば8枚に変わるようにして『神曲奏界ポリフォニカ』に出てくる8柱の始祖精霊の羽根を自由に切り換えて使えるようにして。」

「分かったのじゃ。その願いを叶えよう」

よし！これでほぼすべての属性を使える存在になれる！

「まだ他になにかお願いできる？」

「んっ・・・小さい願いなら大丈夫じゃ」

「それなら俺の生まれ変わる前の今の記憶を忘れないように保存し

てくれ。あと原作の『魔法先生ネギま!』の知識をすべて覚えてるんじゃないかって断片的に残るようにしてほしいんだけど・・・」

「そんなことなら余裕じゃ。他に能力が欲しいとか言うと思ったぞい」

「いやいや、始祖精霊の能力だけで十分だから」

「ならもう転生させるぞい」

「ちよつと待つて。原作のいつに転生させるのかまだ聞いてないんだけど・・・」

「そんなのお主の能力が決まった時にどの時代に転生させるかなんてものは既に決まったようなものじゃ。」

「え・・・?」

「まあ楽しみにしているのじゃ。今のような悲しい人生を送るんじゃないぞ」

神様がそういうと突然上空から裸の小さい天使が降りてきた・・・
天使が・・・降りてくる・・・このシーンは!
なるほど・・・こういう風に転生するのか。
ならここはお決まりのセリフを言うしかないな。

「パトラッシュ・・・僕はもう疲れたよ」

そして僕はどんどん空に運ばれていった。
その途中で、あの名作のキャラは実は転生したんだなと思っている
と意識を失った・・・

ブローグ（後書き）

始祖精霊が分からなければ「ポリフォニカ」のwikiを見てくだ
さい

感想や意見、誤字脱字がありましたら報告お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0023z/>

ネギまに生まれた始祖精霊

2011年11月30日11時52分発行